

(特研様式5)

所属長印

早稲田大学総長 殿

2009年9月23日

所属 政治経済学術院

資格 教授

氏名 村上由紀子 印

## 特別研究期間研究成果報告書

1. 研究課題： 労働移動とイノベーション
2. 研究期間： 2007年9月1日 ～ 2009年8月31日
3. 研究場所(国/都市・機関名)： アメリカ合衆国 ボストン マサチューセッツ工科大学  
(2007年9月1日～2009年6月7日)  
日本 東京 早稲田大学(2009年6月8日～8月31日)
4. 研究成果概要(2,000字以内)：

特別研究期間のうち始めの1年9ヶ月はアメリカのマサチューセッツ工科大学(MIT)で研究を行った。MITとハーバード大学は距離的に近く、両大学は研究交流や共同授業を盛んに行っているため、MITのみならずハーバード大学でも研究や学習の機会を得ることができた。

サイエンティストやエンジニアの国際労働移動がどのようにイノベーションに貢献するのかについて研究することが、特別研究期間中の研究課題であり、そのためにイノベーションのプロセスやイノベーションに携わる人材の研究が盛んなMITを研究場所を選んだ。そこでの最大の成果は、最新の研究動向を知ることができたことである。日本では科学経済学という言葉を目にするのはほとんどなかったが、MITやハーバードでは、科学的知識・技術の生産のメカニズムや生産性の向上、知識の蓄積とスピルオーバー、科学者の養成やモチベーション、科学者の労働市場、知的財産の所有、産学連携、科学技術政策などについて、経済学の観点から、また、学際的な視点から教育や研究が盛んに行われていた。そのため、セミナーや大学院博士課程の授業、研究者との交流を通じて、それらの最新の成果を吸収することができた。また、自分のこれまでの関連する研究について研究発表を行うことによって、日本の実態や重要な分析視点をアメリカの研究者に伝えることができ、さらに、彼らからもフィードバックを得ることができた。

また、自分自身の研究としては、第一に、サイエンティストやエンジニアの国際労働移動のメカニズムや労働市場のグローバル化に関する研究を発展させることができた。アメリカは世界中で最も多くのサイエンティストやエンジニアを海外から受け入れている国である。彼らのアメリカへの移動のメカニズム、アメリカにおける活躍の実態やキャリア形成、彼らがアメリカの科学者の労働市場に与える影響、アメリカの外国人サイエンティストやエンジニアの受け入れ政策などについて研究を行った。また、日本人サイエンティストやエンジニ

※研究終了後2ヶ月以内に提出してください。ワープロ原稿の貼付けも可。なお、学術研究活動情報(学術年鑑 Web)のホームページに掲載しますので、電子メールでも研究支援課まで(tokkenseika@list.waseda.jp)ご提出くださるようご協力をお願いします。

